Ｓｔｅｐ１　実態を把握する

どうやって実態を把握すればよいですか？

児童生徒の障害の状態や個性は，一人一人異なります。そのため，授業づくりにおいては，的確な実態把握が大切です。障害名や診断名を参考にしつつも，目の前の児童生徒一人一人の姿を見つめましょう。例えば，休み時間に一緒に遊んだり，話をしたりすることで，児童生徒の姿が見えてきますよね。

算数科「かぞえめいじんになろう」をするに当たって，Ａさんの実態把握をし，単元と関わりのある部分を抜き出してみたのが以下のものです。

観察
Ａさんはどんな子かな？

コミュニケーションの力
・発語がある。人と関わることが好き。

好きなこと・得意なこと
・歌を歌ったり，体を動かしたりすることを好む。

性格
・性格は明るく，友達の世話をするのが好き。

運動機能
・指先が器用とは言えない。

苦手なこと・嫌いなこと
・失敗したり，注意したりするとその場から動かなくなることがある。

体力

行動

興味・関心
・当番活動に意欲的である。

合理的配慮
・課題に取り組む際に一人で行うことが難しい場合，教師が一緒に行っている。

基本的な生活習慣

検査の結果

障害について
・知的障害（ＩＱ○○），ダウン症
・３までの数を言ったり書いたりすることができる。

家庭での様子
・母と買ってきたクッキーを３個ずつ家族に配ることができた。

生活経験

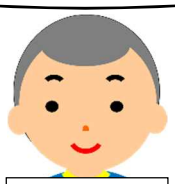
認知特性
・活動内容を実物や写真，手順表などを見せると理解しやすい。

確認
Ａさんが身に付けてきた力
Ａさんに身に付けさせたい力

将来の夢・進路

医療的な配慮

この単元で身に付けさせたい力
・５までの数字の概念を身に付けさせたい。



Ａさん

これまでの学習の様子
・３までの数字を書いたり，指差ししたりして物を数えることができた。

観察するとき…　一緒に関わりながら観察したり，少し離れたところから他の教員や友達と関わるところを観察したり，一人でいるときの過ごし方を観察したりします。

確認するとき…　「保護者からの聞き取り」「本人の言動」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「昨年からの引き継ぎ」「他の教員からの聞き取り」「検査の結果とその解釈」等を参考にします。